

北条鹿島のシカ保護管理計画 (第2期)

平成31年4月

松山市 観光・国際交流課

1. 計画策定の背景及び目的

昭和 36 年に島の植生やニホンジカ（以下、シカ）の保護と観光面への活用を目的に鹿園（旧鹿園）を設置し、島内の多くのシカを鹿園に収容した。

その後、鹿園内外とも生息数の増減を繰り返す中、野生のシカの増加による樹木や草本への被食が目立つようになり、島内環境の悪化が懸念され始めたため、平成 26 年 4 月から平成 31 年 3 月までを対象期間として、「北条鹿島のシカ保護管理計画（第 1 期）」を作成し、その計画に基づき、平成 29 年 3 月に鹿園（新鹿園）を新設し、野生のシカを収容した。

本計画は、北条鹿島のシカについて適切な管理を行うことで、島内の健全なシカ個体群の維持と森林生態系の保全を図り、かつ、人々に親しまれるような環境づくりを目的とする。

2. 管理すべき鳥獣の種類

鳥獣の種類は、ニホンジカ：*Cervus nippon* Temminck, 1838 である。

3. 管理すべき鳥獣の個体数

新シカ園 23 頭（オス 2 頭、メス 21 頭）、旧シカ園 38 頭（オス 11 頭、メス 19 頭、当歳獣 8 頭）計 61 頭である。（※平成 30 年 12 月時点）

4. 管理が行なわれるべき区域

鳥獣の管理が行なわれるべき区域は、北条鹿島全域とする。

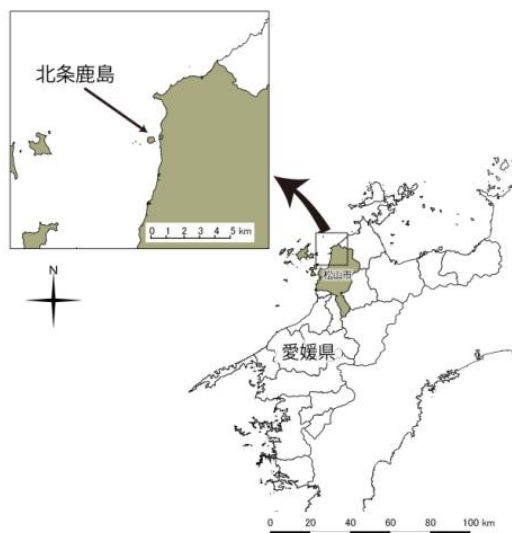


図 1. 北条鹿島位置図

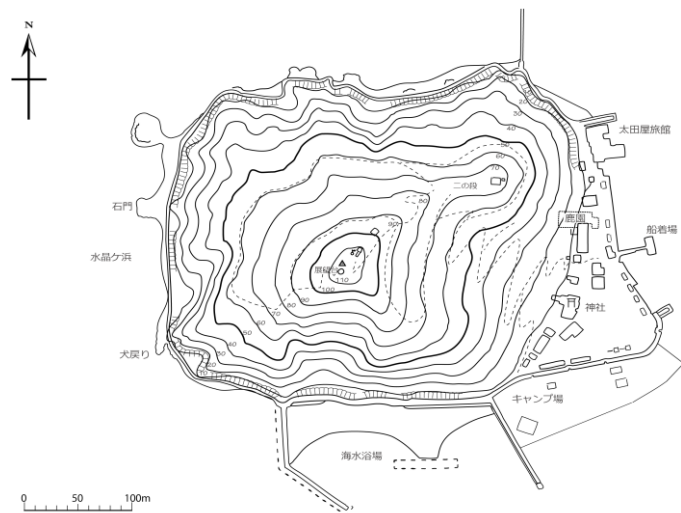


図 2. 北条鹿島全図

5. 計画の期間

管理計画の有効期間は、2019 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までとする。

6. 北条鹿島の現状と課題

(1) 植生の状況

「北条鹿島のシカ保護管理計画（第1期）」において、観光資源としてのシカの活用のため、第一段階として園外に10頭以下のメスジカを放し飼いにすることが提言されているが、これは「被害を受けた植生の回復を阻害しない程度の軽微なものであることが前提」となっている。平成24年度の調査では、「島の大部分で樹木の実生が貧弱であることは、林の自然更新の可能性が低いことを示唆するが、林床の草本にも多様性が見られず、シダや一部の草本のみで覆われるか裸地が目立つことと併せて、島の自然植生は相当にいびつで危機的な状態にあると思われる」という評価であった。その後、島内環境とシカの保護のため、平成29年3月に設置した新鹿園に野生のシカを総て収容した。平成30年10月に植生の調査を行った結果、樹林内にマルミノヤマゴボウ、メハジキ、ハダカホオズキ等、希少在来種の復活が確認されるとともにシロダモやエノキ、ムクノキ等の樹木の低木も確認された。また、林縁や海岸広場ではマルバツユクサ、コマツヨイグサ等、他種の外来種が新たに侵入していることも確認され、部分的にはオオアレチノギク等の外来種が繁茂する等、植生は著しく変化を始めていることも確認された。しかし、全体としては平成24年度の調査時と特に変わりなく、シカの忌避植物が大半を占める状況であった。

(2) シカの管理状況

現在、北条鹿島には島南東部の新鹿園と島東部の旧鹿園の2ヶ所の鹿園がある。新鹿園には、野生のシカを総て収容し、オスとメスを分けて管理しているが、旧鹿園ではオスとメスを分けずに管理していて、繁殖管理が行われていない。シカの個体数を現状の水準より増加させず、かつ過度の減少も避け、また近親交配による個体の弱体化を防いで健全な状態で存続させるため、適切な繁殖管理を行う必要がある。また、北条鹿島では、毎年、発情期のオス同士が喧嘩をし、傷つけあうことを防ぐため、「シカの角切」を実施している。

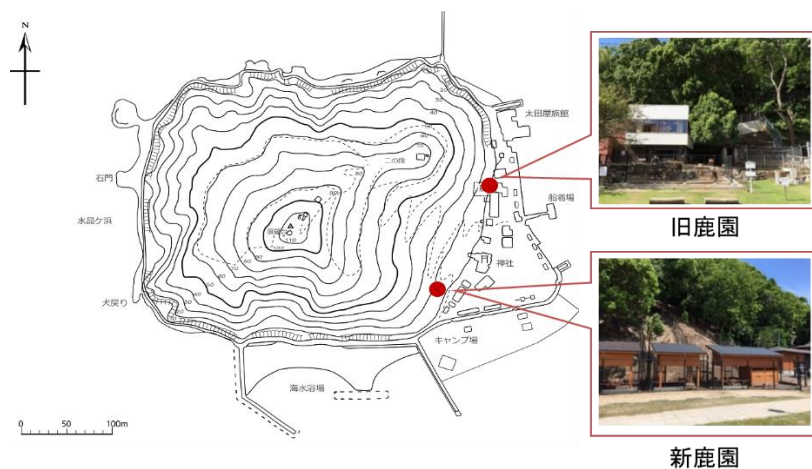


図3. 鹿園位置図

7. 目的達成に向けた取組み

(1) シカの放し飼い

平成30年10月に植生の調査を行った結果、前述のように、シカの忌避植物が大半を占める状況であった。

したがって、シカの放し飼いについては、今後、定期的に植生回復の調査を行い、植生の十分な回復が確認でき、シカを放し飼いしても健全な植生環境を維持することが可能と判断された段階で、適当頭数のメスジカの放し飼いを検討する。

(2) シカ健康管理

市が鹿園清掃員等と連携し、日常的にシカの健康状態を監視する。治療が必要となる場合は、外部機関に臨床経験のある獣医師の派遣を要請し、対応する。また、日常的なシカの管理方法や環境づくりについては、適宜、動物園や獣医師等と相談し、適正に対応する。

(3) シカの頭数管理

旧鹿園のシカの個体数の増加を防ぎ、また、近交弱勢の予防等を図るため、旧鹿園のオスを新鹿園に移動させ、オスとメスを分けて繁殖管理する。適切な繁殖管理を行うため、可能な限り総ての個体にマイクロチップを取り付ける等の方法により全個体の個体識別を図り、計画的に繁殖させていく。

(4) シカの角切

実施に当たっては、外部機関の臨床経験のある獣医師1名及び安全確保に必要な人員を配置する。園内において、角切前のオスと角切後のオスの仕分けを行い、獣医師が1頭ずつ麻酔を投与する。麻酔が効いてきたシカから5名程度でシカが怪我をしないよう取り押さえ、角をカットする。角切が終わったシカは獣医師が麻酔拮抗薬を投与し、覚醒及び自立歩行が可能になったことを確認し、解放する。ただし、新鹿園は斜面に設置されており、角切後のシカが斜面から落ちて怪我をすることを防ぐため、興奮したシカが落ち着きを取り戻すまで斜面に上がれないよう柵をする。

8. 取組みに対する評価

学識経験者や地元関係者等で構成する「北条鹿島シカ保護検討委員会」を定期的を開催し、植生やシカの管理状況等について協議する。